

# 種子の採取・保存事業(2019)

## ●アマモ種子の採取

### ※赤穂市唐船海岸

赤穂市唐船海岸は6月2日(日) 13:30~15:00、相生湾自然再生学習会議の松村代表の応援を得て、4名で採取しました。

唐船西側海岸で行った覆砂が西からの冬季風浪で移動しているのか、潮位が下がると砂地の海底が水面上に見えてきますが、昨年より沖側に広がっているように感じます。

アマモ場は健在で、生育密度を増しているようです。アマモ種子もタイミングが合ったようで、花枝採取には苦勞しませんでした。

採取したアマモ種子はその日のうちに明石市江井ヶ島の岸壁に設置している水槽に入れました。



唐船海岸 (H30.6.15、P.M.5:00) 潮位:ほぼ±0.0m

### ※明石市江井ヶ島海岸

明石市江井ヶ島海岸は6月8日(土) 15:00~16:00、地曳網に引き続き行いました。

地曳網に西宮市からいつも来られているご家庭のグループがアマモ種子にも参加、協力してくれました。小学生が4人とそのお父さんとお母さんが3名で、当NPOのスタッフも4名ですので、これまでで一番大人数でした。

まずはアマモ種子を付けている花枝と栄養株の違いと、花枝の見分け方と採取方法を説明し、足が抜けないほどのぬかるに入った場合は慌てず、近くにいる大人に助けをくれるよう声をかけるよう注意し、採取開始です。

ここでも時期が合い、花枝はすぐに見つかります。子供たちは海に入るのは今年初めてなのか、楽しそうに声を上げながら、花枝を採取してくれました。

採取したアマモ種子はすぐに漁港岸壁の水槽に入れ、養生しています。

皆さんありがとうございました！そして、ご苦勞様でした！



江井ヶ島海岸・自生アマモ場 (H30.6.15、P.M.6:00) 潮位:ほぼ±0.0m

## ●アマモ種子の養生

アマモ種子の養生は江井ヶ島港の岸壁で江井ヶ島漁協さんの施設を利用させて頂いて行っています。

養生する種子は自主的に採取した赤穂、明石の種子だけでなく、各地から送られてくる種子もあります。限られた水槽スペースでこれら種子が混ざらないよう分離して養生・選別するために、水槽を1mmメッシュのスクリーンで仕切ります。

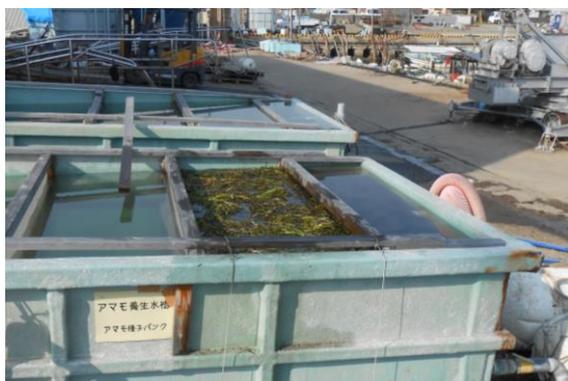


アマモ種子養生水槽



中仕切りとスクリーン

アマモ種子の水中養生は、アマモ種子が多量の場合は仕切り区画に花枝をそのまま水面に投入し、花枝を水中に浮遊させて養生します。また、少量の場合は、採取した鞘、花枝を目合い1mmの袋に入れ、水中に吊り下げて養生します。



花枝の投入



養生袋による水中養生

## ●アマモ種子の選別

多量の種子で花枝をそのまま投入した仕切りでは、だんだんと水面下に没していき、茎や葉が茶褐色になり、約1ヶ月の間に水槽の底に堆積します。この時点で種子は鞘から落ちていきますので、サイフォンで全て吸い上げ、容器に移します。



だんだんと花枝は底に沈んでいきます

少量の養生袋では、水槽内から養生袋を取り出し、袋を開けて花枝の状態をみます。そして、種子が鞘から落ちていることを確認し、容器に移し替えます。



種子が鞘が落ちていることを確認し、容器に移す  
そして、大きな茎をまず除去し、次に小さな茎、葉を除去します。

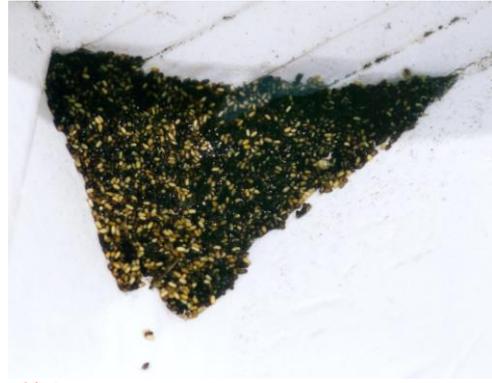


腐敗した茎、葉などを除去  
海水により細かな雑物を流して、種子だけにします。比重の小さい、白色の未熟な種子も一緒に流します。



選別作業  
小さな巻貝、二枚貝、アメフラシなどは除去し切れませんが、できるだけアマモ種子だけにします。





アマモ種子だけに  
種子を容器に入れ、運搬時には水温が上がらないよう容器の周りに氷を入れます。



氷を入れて運搬

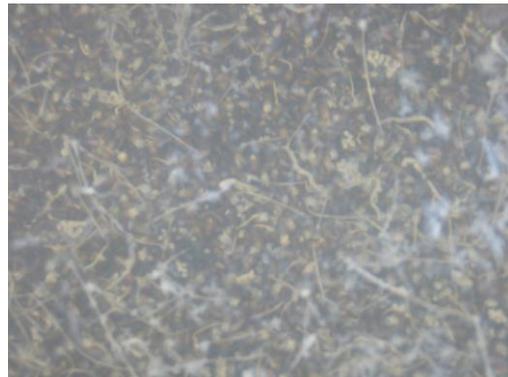
## ●アマモ種子の保存

事務所に持ち帰った種子は、恒温高湿箱で温度 4℃で、種蒔きを行うまで保存しておきます。



恒温高湿箱で保存中のアマモ種子

アマモ種子保存中は、海水中に白い好気性微生物が発生しますので、出来るだけ頻繁に海水を交換します。



白い好気性微生物が発生する。

白い微生物が繁殖し、海水中の溶存酸素量が少なくなると、表面のアマモ種子が発芽する。発芽した種子は比重が小さくなるのか、海水を交換する毎に流失します。種子が生きていることの証ではありますが、健全な種子を失うので、喜んでいいのか、悲しむべきか複雑な気持ちになり、早く10月にならないかなと思います。



保存中に発芽したアマモ種子